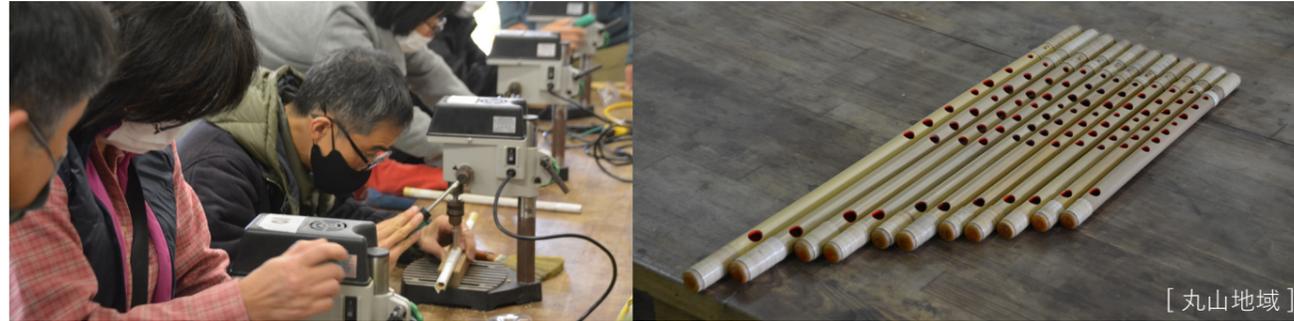




2022

里山資源利活用プロジェクト - 篠笛事業化プロジェクト -



[丸山地域]

実施者

＜実施メンバー＞千葉工業大学 情報科学部 情報ネットワーク学科 助教 中川 泰宏
 千葉工業大学 情報科学部 情報ネットワーク学科 中川研究室
 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 教授 加藤 和彦
 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 加藤研究室

＜協働パートナー＞

【行政関係】南房総市役所 市民生活部 市民課 市民協働グループ, 南房総市観光協会
 【企業等】みねおかいきいき館 (南房総市大井), 篠笛楽達工房 (群馬県), 篠笛工房惣竹 (東金市), 合同会社いもんだ (香取郡神崎町)
 【市民団体等】南房総市大井区, 大井里山保全協議会 (南房総市大井), 新宿おはやし保存会 (東金市)

1. 背景・目的

本プロジェクトは、南房総市で広範囲に群生する篠竹の有効利用と、その事業化を目的としている。具体的には、伝統工芸品である篠笛に向けた篠竹が同市に広く自生していることから、この篠笛をブランド化して販売すると共に、素材としての篠竹も合わせて販売することを目的としている。このプロジェクトの活動は、2018年度の「空き公共施設利活用プロジェクト」から始まり、2020年度の「人材育成支援プロジェクト」を経て、2021年度に新たなプロジェクトとして独立している。活動場所としては、他のプロジェクトと協働活動を行っており、すでに協力関係の築かれていた大井地区が選ばれている。2018年度は地元区長の協力の下、試験的な篠竹の採取を行った。そして、篠笛文化の周知を行う活動として、空き公共施設を利用して篠笛ワークショップを開催した。その後も、継続的に篠竹の採取を行ながらノウハウを蓄積しつつ、市民向けのワークショップも開催することで、南房総市における篠笛のブランディング化活動を続けている。本稿では、2022年度に活動した取り組みについて報告する。

2. 活動内容

このプロジェクトは、南房総市の篠竹を篠笛としてブランド化するともに、篠竹を素材化して販売することを目指している。これまでの活動を通じて工程化した篠笛作成の流れを表-1に示す。篠笛は直径2cm程度の太さを持つ篠竹を素材とする。この状態から演奏可能な篠笛になるまでいくつかの工程が存在する。これらの工程を大きくまとめると、工程番号1～5番の篠竹採取、工程番号6～7

番の篠竹保管、工程番号8～11番の篠笛作成の三つに分けられる。ここで、一つ目の篠竹採取は、採取・切断・選定・煮沸・洗浄の5つの小工程に分けられ、二つ目の篠竹保管は天日干し・陰干しの二つの小工程に分けられる。そして三つ目の篠笛作成は、製管・調律・色塗・籐巻の4つの小工程に分けられる。今後、持続可能な事業として篠竹の販売・利用をするためには、いくつかの販路ないし用途を確保する必要がある。本プロジェクトでは、以下の4つの手段で篠笛・篠竹の販売・利用を検討している。

- ① [愛好家向け] 篠笛用素材としての篠竹の販売
- ② [工房向け] 篠笛用素材としての篠竹の販売
- ③ [一般向け] 篠笛ワークショップでの利用
- ④ [一般向け] オリジナルブランドとしての篠笛の販売

このうち、③の用途は、現地大井の体験館であるみねおかいきいき館で2020年12月から実現しており、ワークショップを継続的に開催しながら、そのノウハウの現地移管を進めている。本年度は、愛好家向けの取り組みとして①の篠竹の販売の準備を進めている。具体的には、篠笛作成に必要な各種材料と、篠笛の作成・演奏方法を記録したDVDをセットにして、ワークショップ参加者などの愛好家向けに販売を予定している。現在、②④の実現を目指して、篠笛楽達工房の楽達氏と篠笛工房惣竹の協力のもと、工程1～7番の改善や、工程8,9番のワークショップ化について取り組んでいる。また、継続的な篠竹の採取に向けて、採取場所の選定や採取方法、素材となる篠竹の選定方法などについても指導を受けている。

表-1 篠竹の採取から篠笛作成までの工程

No.	工程名	工程内容	日程
1	篠竹の採取	竹林から篠竹を採取します	1月
2	節の切断	採取した篠竹を節単位で切断します	2月
3	篠竹の選定	切断した篠竹から篠笛に利用できるものを選定します	
4	煮沸(油抜き)	選定した篠竹の油抜きと煮沸殺菌をします	
5	洗浄	煮沸した篠竹の汚れを落とします	3月
6	天日干し	篠竹の色抜きと篠竹の耐候性を確認します	1年以上
7	陰干し	陰干しによる長期の保存によって耐候性を確認します	
8	製管(初級講座)	篠竹に穴を空けて音がなるようにします	随時
9	調律(中級講座)	製管した篠笛の音を調律します	
10	色塗(上級講座)※予定	調律した篠笛に仕上げとして色を塗ります	
11	籐巻(上級講座)※予定	篠笛の割れ防止とデザインのために籐を巻きます	

表-2 2022年度実施スケジュール

No.	日程	活動内容	会場
1	2022/6/26(日)	篠竹の煮沸・洗浄・天日干し(工程4～6)	南房総市大井(みねおかいきいき館)
2	2022/7/26(火)	篠竹の陰干し(工程7)	南房総市大井(みねおかいきいき館)
3	2022/8/21(日)	DVD動画作成に関する打ち合わせ	南房総市大井(みねおかいきいき館)
4	2022/8/28(日)	DVD動画の作成1	東金市
5	2022/9/11(日)	DVD動画の作成2	東金市
6	2022/9/18(日)	DVD動画の作成3	東金市
7	2022/10/9(日)	DVD動画コンテンツのレビュー	南房総市大井(みねおかいきいき館)
8	2022/11/19(土)	篠笛ワークショップの準備1 篠竹の選定(工程3)	南房総市大井(みねおかいきいき館)
9	2022/11/27(日)	篠笛ワークショップの準備2	東金市
10	2022/12/4(日)	篠笛ワークショップ(体験者20名)	南房総市大井(みねおかいきいき館)
11	2023/2/19(日)	篠竹の採取・切断(工程1)	南房総市大井(みねおかいきいき館)
12	2023/3/21(火)	篠竹の煮沸・洗浄	南房総市大井(みねおかいきいき館)



図-1 採取した篠竹を分割して保管している様子



図-2 分割した篠竹を油抜きの準備

域学協働の工夫!

- ★事業を後押しする行政との協力関係
- ★地域住民の理解と協力
- ★専門性の高い人材を現地とつなげる工夫
- ★ステークホルダーの相互利益につなげる取り組み
- ★オンラインツールを利用した関係者との緊密な連携

ここで、2022年度に本プロジェクトが活動した内容を表-2に示す。2022年度は、1月に採取・切断した篠竹のその後の工程を進めつつ、篠笛ワークショップの開催を行い、また、篠笛作成キットの販売を視野に入れた動画コンテンツの作成を行った。まず、篠竹の採取に関連した取り組みについて報告する。実際の篠竹の採取は1月に済ませており、篠竹の切断作業も前年度中に終えている(図-1)。本年度は、その後の対応として、工程4,5の篠竹の煮沸・洗浄を6

月26日に行い(図-2)、工程6の1か月の天日干しを行った。その後、対候性チェックとして工程7の陰干しを行っている。順番は入れ替わるが、COVID-19の感染拡大状況を踏まえて、工程3の選定作業は11月19日に行い、次年度の活用に向けて陰干し工程を継続しながら保管している。図-3に選定作業で分けた後の8本調子を示す。ここで、工程3の順番の入れ替わり理由について補足する。選定作業におけるノウハウの確立不足から、本年度も工



図-3 選定した篠竹 (2022年採取分8本調子)

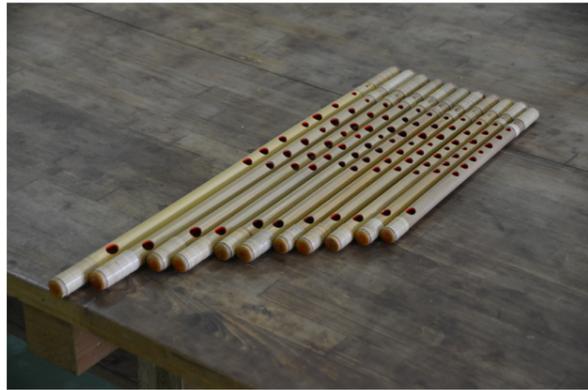


図-4 調子の異なる篠竹 (右に行くほど調子が高い)



図-5 DVDコンテンツの流れの検証

程3の検証を後ろに回していた。この時、結果的に廃棄する篠竹も煮沸・洗浄することになる。そこで、無駄の発生を防ぐために、選定のノウハウが蓄積され次第、正規の順番に戻す予定であった。しかし、現地体験館の工夫により、廃棄品の用途についても目途が立ちつつあるので、このことも踏まえて工程3の実施時期について再検討する予定である。2022年の採取の成果として、8本調子用の篠竹が84本、6本調子用が112本、5本調子用が162本、4本調子用が100本、3本調子用が54本を選定することができている。ここで、調子とは音の高さを表す単位であり、調子の番号が高いほど、高い音が鳴る笛となる。異なる調子の竹が並ぶ様子を図-4に示す。

次に、篠笛作成における動画コンテンツの作成について報告する。本年度は愛好家向けの素材販売を目指すため、篠笛作成キットの販売の準備を進めた。その際、キットを販売するだけでは数居が高いものとなるため、作成方法を記録した動画コンテンツを提供することが検討された。提供方法としては、DVDメディアによるキットへの添付と、YouTubeの限定配信による動画での閲覧などが検討されている。本年度は新宿おはやし保存会の協力のもと、8月21日の打ち合わせを皮切りに、8~10月に複数回に分けて動画コンテンツの素材を収録した。また、10月9日のDVDコンテンツの検証では、まだ篠笛に触ったことがない学生に協力を得ながらその流れについて検証している。この時の様子を図-5、DVD映像の一例を図-6、7に示す。その後、12月4日に行われた篠笛ワークショップでは、この動画コンテンツの内容を元に篠笛の制作体験を行っている。

今後、これらの成果をまとめて、2023年3月を目標にDVDの試作を行う予定である。

最後に篠笛文化の理解と普及を目指した篠笛ワークショップについて報告する。篠笛ワークショップは2019年3月に旧和田中学校、11月に酪農の里で笛師の楽達氏を招いて開催した。2020年以降は篠竹の採取を行っている地元大井へ移管を目指して活動を行っている。具体的には、2020年11月に大井のみねおかいき館の「竹のシンポジウム」にて、まずは千葉工業大学を中心に篠笛の展示と作成体験を行った。その後はみねおかいき館の体験メニュー化を目指して、2021~2022年にかけて、子供から大人まで気軽に参加できる篠笛ワークショップを新宿おはやし保存会、篠笛工房惣竹と協力して開催している。本年度12月に開催した篠笛ワークショップは、午前11名、午後7名の参加があった。この時の様子を図-8、9に示す。また、この制作体験で利用した篠竹に貼り付けるテンプレートを図-10に示す。運営面では、みねおかいき館スタッフに加えて、千葉工業大学、新宿おはやし保存会、篠笛工房惣竹の関係者9名も運営に加わり、それぞれの経験と立場から運営方法について協議し、経験を重ねている。

4. 篠笛作成の手順 ⑥ 唄口の作成

唄口にドリルで孔を開けて、やすりで形を揃えます。



図-6 篠笛作成 DVD映像の一例 (作成手順)



図-7 篠笛作成 DVD映像の一例 (演奏動画)



図-8 篠笛ワークショップ午前の部で篠笛を作る様子



図-9 篠笛ワークショップ午後の部で自作した篠笛を演奏する様子

3. 成果と課題

(1) 地域貢献面

2018年度からの継続的な取り組みにより、篠竹の採取から販売に至る工程がある程度確立しつつある。特に本年度は篠笛楽達工房と篠笛工房惣竹の協力により、篠竹の調子分けに関する選定工程の知見が深まった。当初は千葉工業大学を含む南房総市外のスタッフが中心となり始めた事業であるが、年を重ねるにつれ、地域への還元が進むと同時に地域の主体性も向上しており、今後の発展に期待が持てる。定期的実施している篠笛ワークショップにおける篠笛作成体験と演奏体験では、多くの参加者から好評を得ることができており、この活動を広げることで、日本古来の古典楽器に興味を持つきっかけにつながっていくと考えられる。

(2) 教育・研究面

本年度実施した篠笛ワークショップでも参加者の反応が良好であったことから、子供たちの教育的側面だけではなく、大人の生涯学習の観点からも有効な取り組みであると考えられる。これまでの取り組みに加えて、新宿おはやし保存会や篠笛工房惣竹などの専門性の高い貢献者の参加も相まって、篠笛ワークショップの質も高まっている。そのため、今後もこの活動を継続し、より多くの体験者が参加できるよう、イベントの回数を増やしたいと考えている。そして、

*表彰・マスコミ掲載など

特になし



図-10 篠笛作成テンプレート (ドレミ調)

地元体験館の体験メニューへと発展させていくことで、より多くの参加者が伝統芸能に興味を持つきっかけにしたいと考える。

4. 今後の展開

前年度までの取り組みで、篠竹の採取から利用までのサイクルについて一つの目処がついている。本年度はそれらの取り組みを継続しつつ、事業のノウハウの蓄積を行った。また、篠竹の販売を目指して、新たに動画コンテンツの作成に取り組んだ。今後は、篠笛ワークショップの開催回数を増やす取り組みを行い、参加者や愛好家向けの篠竹の販売も行っていく、事業を段階的に発展させていく予定である。